

(様式1)

令和4年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1)学校教育目標	ア 心身ともに健康で、奉仕と協調の精神に富み、豊かな個性と「生きる力」を備えた人間の育成 イ 自主的かつ意欲的に学業や課外活動に取り組み、絶えず学力と品性の向上に努める創造性豊かな人間の育成 ウ 国際化・情報化に対応する語学力、コミュニケーション能力、情報活用能力を備えた人間の育成
(2)現状と課題	多くの生徒が上級学校進学を志望していることから、学校活動の充実と学力の向上を図り、進路志望の達成率を向上させる必要がある。さらに、変化が激しく予測が難しい時代を遅く生きるために、主体的に課題解決に取り組み、将来設計ができる生徒を育成する必要がある。
(3)重点目標	1 確かな学力を育む(学習指導) 2 豊かな心を育む(生徒指導) 3 夢の実現を支援する(進路指導) 4 開かれた学校を目指す(外部連携)
(4)結果の公表	学校ホームページで公表する。

学校整理番号	12
学校名	青森県立八戸東高等学校
全日制の課程	校舎・分校
自己評価実施日	令和5年2月1日(水)
学校関係者評価実施日	令和5年2月6日(月)

(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成	
元本校教員	1名
学識経験者	1名
企業・経済関係者	1名
地域住民代表	1名
保護者代表	1名
	計5名

番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	学校関係者評価		(10)次年度への課題と改善策
					(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	(1)基礎・基本の徹底	①指導方法・評価方法の工夫改善 ②学習意欲を高める授業 ③自学習慣の確立 ④言語活動の充実	①全教科でICTを活用した研究授業を行い、事後の合評会では指導や評価方法の改善のための積極的な意見交換を行った。 ②授業アンケートの質問事項を新学習指導要領を反映したものに變更し、年2回実施後、生徒の評価・意見を踏まえ、速やかな授業改善を図った。 ③今年度も、自己指導能力(生きる力)の育成のためにホームルームでの10分間の「朝読書」を実施している。月曜日を定時退勤日・部活動休養日とし、家庭学習を確保できるようにした。 ④多くの科目でペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーション等の機会を設け、言語活動を充実させることができた。	B	(質問) 生徒の授業評価に関して、各項目の数値の集計表や割合を示した資料はないのか。 (回答) 自分の授業を振り返ったり、今後の授業改善を行ったりするために各教員がデータを持っているが、全体でまとめることはしていない。 (質問) 生徒はタブレット端末を家に持ち帰っているのか。 (回答) 全校で持ち帰りの訓練を一度行っている。日常的に持ち帰る生徒は少ないが、自宅待機が必要な場合には、オンラインで授業を受けるために持ち帰る生徒がいる。3年生は、進路活動をするために多く持ち帰っているようだ。		・今年度の入学生から新学習指導要領が始まり、次年度は2年目となる。主体的・対話的で深い学び、教科横断型の授業等への理解を深め、生徒が「できる・できた」をより意識した言語活動を促進していく必要がある。 ・観点別評価も今年度から本格的にスタートし、各教科内での情報共有を促し、評価に関する十分な説明責任を果たす。 ・ICTの活用については、教員がパワーポイント等を教室のスクリーンに投影して生徒に説明する方法は多く行われているが、生徒一人一人に貸与されているタブレットについては活用している場面が少ない。授業で生徒一人一人がタブレットを活用できるよう、校内研修等を通して教員の指導力を向上させる。
	(2)国際化・情報化に対応する能力の育成	①外国語指導助手の効果的活用 ②ICT機器の活用促進	①外国語指導助手が2年生の英語の授業で毎週指導した。英検の面接指導も行い、合格者の増加に貢献した。英語部でも週2回指導を行った。 ②ICT機器関連では、GIGAスクールに向けた1人1台端末の整備、欠席した生徒への授業の配信を実施した。	B	(質問) LGBTIに対して、女子生徒の制服にスラックスを導入したことを受けて、外部から東高校に非常に関心が高まっている。埼玉県では、県全体をあげてLGBTIに取り組んでいるようだ。スラックスについて、どれくらいの生徒が実際に着用しているのか。 (回答) 1年前から販売を始めたが、2・3年生も新たに購入している。業者に問い合わせたところ、入学時にスラックスを購入した1年生は約40人であった。		・人間関係の不和やトラブル等による不登校傾向の生徒を支援するために、スクールカウンセラーとの連携を強化する一方、今年度あまり開催できなかった教育相談委員会の回数を増やすことで心の悩みの的確な把握と解消に向けての組織的・効果的な対応を推進する。 ・地域住民から登下校のマナーについての苦情が来たこともあり、次年度も下校指導を行い、同時に自転車通学生集会や1年生の安全教室での交通ルールの確認を強化する。送迎車の駐車に対する苦情があり、保護者への文書や学年PTA等でお願ひしていく。
2	(1)基本的な生活習慣の確立	①「掃除・挨拶・5分前」の励行 ②学校行事・特別活動での自己の伸長 ③面談等による生徒理解の充実 ④不登校・問題行動への早期対応	①生徒指導部教員・部活動の生徒・保護者による朝の挨拶運動を行い、自ら挨拶する態度を育成した。 ②コロナ禍ではあったが、2度延期した3年生の修学旅行を7月に実施し、生徒は集団行動や相手を思いやる心の大切さに気付くなど大変実りあるものとなった。 ③クラス担任が生徒面談を年に複数回実施し、生徒の希望進路、健康状態と生活状況等を把握し、生徒理解を深めた。 ④気になる生徒の情報は、保護者と連絡を取り合い学年・生徒指導部・保健部・管理職が連携し対応し、必要に応じてスクールカウンセラーとの面談を実施した。不登校傾向の解消に至らなかったケースもみられた。	B	(意見) スクール・ポリシーに、「道徳力」をいれてもいいと思う。 (意見) スクール・ポリシーについて、「主体的」がキーワードになっているが、今の子供たちはやはり手本を「見せてから自分でやるという形で導かないと難しいところがある。どういう意味での「主体的」なのかを説明したり、明らかにした文章にしたりするのではないかと。		・昨年度、7月に実施した球技大会で複数の生徒が熱中症となったことを踏まえ、今年度は9月実施に変更し、球技だけでなく激しい運動を伴わない種目を導入することで熱中症者を出さずに終えることができた。次年度も、生徒の安心・安全を最優先して学校行事に取り組む。
	(2)安心・安全な学校生活	①いじめの早期発見・未然防止 ②危機管理と緊急時の的確な対応	①いじめの疑いについて情報収集後、いじめ対策防止委員会を速やかに開催し、2件のいじめを認定した。組織的な対応により関係生徒から十分な聞き取りを行い、加害者については適切な指導を行った。 ②12月の避難訓練は、生徒に時間を知らせずに実施することで、本番に備え、生徒が自分で避難経路を考えて移動することができた。	B			
	(3)部活動の充実	①目標の明確化と計画的指導	①全国高総文祭に、今年度は書道部、放送部、文芸部、弁論部門が出場し、次年度は書道部、弁論部門が出場予定など、多くの大会で生徒が活躍した。運動部活動の方針、各部の年間活動計画・月間活動計画をホームページに公開した。	B			
3	(1)キャリア教育の充実	①3年間を見通した進路指導 ・教育活動全般を通じた意識づけ ・生徒の主体的進路研究の奨励 ・体系的効果的な面接・小論文指導 ・効果的な講習・個別指導の工夫 ・面談指導の徹底(二者、三者、四者) ・望ましい職業観・勤労観の育成 ・難関大・医学科志望者への指導力向上 ②新大学入試制度への対応の研究	①1年生の文理選択指導、2年生のSDGs及び世界遺産課題研究、3年生の表現力向上集中講座等を行い、主体的な進路研究につなげることができた。2学年で実施していた八戸市内の事業所を訪問する校外体験学習を10月に実施し、自分の興味のある職業についてのお話を聞き、職業観を養うことができた。 ②総合型、学校推薦型選抜の志望理由書の作成について、これまでの3学年担任から全教職員へ指導者を広めたことで、業務のアンバランスを是正し、全教員の指導力の向上にもつながった。また、情報が2年後の共通テストに導入されることから、教育課程委員会でも対応について検討した。	A	(意見) 総合型・学校推薦型の入試が増えていることを受けて、全教職員で指導する体制に変更したことに感心した。一方で、教員の負担になっているのではないかと心配もしている。生徒自身が将来やりたいことを主体的に調べていくことが必要であり、その中で教員が必要に応じて相談・指導しながら、地域社会に貢献できる人材を育成することが大事だと思った。 (意見) 2年生の校外体験学習について、この地域でも開かれた企業が増加しているため、企業と連携・交流して学びを深められたらいいと思う。		・キャリア教育を推進し、具体的には、学校行事やボランティア活動等を通して多様な仲間や年代とのコミュニケーションスキルと協力の仕方を学ぶことで人間関係形成能力を、総合的な探究の時間の充実により課題解決能力を、各種体験活動から得られた学びを次に活かす活動によりキャリアプランニング能力を育成する。 ・今年度変更した総合型・学校推薦型の指導体制は、基本的には今年度と同様の体制で行う予定だが、客観的に評価し、改善すべき点は改善する。
	(1)保護者・外部への情報提供	①保護者との連携 ②学校HPの充実と迅速な更新	①PTA健全育成委員会の保護者を中心に、朝の登校時一声運動に参加し、登校する生徒に挨拶をしていただいた。 ②新型コロナウイルス感染防止対策について、ホームページに随時掲載した。しかし、ホームページの部活動の欄には、今年度のものが掲載されていない部活動も見られた。	C	(質問) 学校評価アンケートの自由記述欄に書かれた要望・質問に対して返答はどのようにしているのか。 (回答) 今年は記名式でアンケートを行ったため、質問・要望の出された方には電話で状況を確認の上で回答した。		・学校評価アンケートの回答に寄せられた要望事項へは、今後も真摯に対応し、できるだけ早く改善を行う。 ・ホームページの部活動の情報の更新を速やかに行う。
4	(2)地域・関係機関との連携・協働	①外郭団体との円滑な連携 ②ボランティア活動の推進 ③人材活用(地域・卒業生)	①PTAの協力を得て、朝の保護者による挨拶運動、イルミネーションの飾り付け、ゴミ拾いボランティアへの参加等を行った。 ②③コロナ禍により、多くの活動が中止となったが、学習支援ボランティアは近隣の小学校の協力により実施した。	B	(質問) 学校からの案内をメールで出してほしいという保護者からの要望に対して、どういった対応をとる予定か。 (回答) 現在、緊急の内容のみメールで配信している。全ての文書をメールで送ってほしいという要望があるが、年度末にかけて方向性を定めたい。		・PTAの校内研修への参加者が少なかったため、次年度は参加者が増えるよう工夫し、協力してもらえ体制を作っていく。 ・生徒に校外での体験活動を積極的に勧めることで、社会を知り、自分の適性を考えながら主体的な進路の選択に繋げたい。
	(11)総括	新型コロナウイルス感染防止対策のため文化祭が中止になるなど、今年度も学校行事の多くが影響を受けた。普段の学校生活も、登校前の健康観察、感染対策のため授業での換気の徹底や昼食時の黙食等の感染対策を呼びかけた。このような中、進学校としての責務を果たすために、生徒の進路志望の実現を目指し、キャリア教育の年間計画に基づいて生徒により高い進路意識を持たせ、学習意欲を高めるために外郭団体や保護者の協力も得ながら様々な進路指導行事を行ってきた。生徒指導面では大きな問題もなく落ち着いたが、様々な悩みを抱え登校できない生徒も複数おり、保護者と情報を共有し専門機関と連携しながら生徒の悩みを受け止め、支援の必要な生徒に寄り添っていく必要がある。本校は、昨年度創立百二十周年を迎えたが、地域の伝統校として、これからも地域との連携・協働を図りながら学習指導、生徒指導、進路指導をさらに推進する。					